

観光名所



最近、世を騒がせた犯罪現場に何度か足を運ぶ機会があった。きっかけは、昨年、「三億円事件」を題材にした芝居を上演する際にかの地を訪ねたことである。足を運んだのは「帝銀事件」が起こった豊島区長崎にある銀行跡地、「東電OL殺人事件」が起こった渋谷区円山町のアパートである。そういう場所に足を運ぶ度に、事件現場は「特権的な場所」であると感ずる。

これらの場所は、その事件さえ起こらなければとるに足らない平凡な場所に過ぎない。例えば、府中刑務所脇の学園通りも「三億円事件」がなければ人通りの少ないただの道路に過ぎないし、西武池袋線椎名町駅付近の元帝国銀行跡に建つマンションも「帝銀事件」がなければただのありふれたマンションに過ぎないし、渋谷区円山町にある古びたアパートも、「東電OL殺人事件」がなければただの古びたアパートに過ぎない。にもかかわらずこれらの場所がわたしの目に特権的に映るのは、その場所ですこれらの事件が発生したスペシャルな場所であるからに他ならぬ。

本来、あってはならないことが起こった忌まわしい場所ではあるが、これらの場所は、わたしの想像力を強く刺激する。そこを訪れることによって、報道や書物を通して思い描いた事件を頭の中で再現することを半ば強いられるからである。また、かの地を訪れる行為は、一種のタイム・トラベルとも言える。かつて劇作家の別役実さんは「犯罪現場は訪れる者の“歌ごころ”を刺激する」と言ったが、けだしその通り。ガイドはいないものの、わたしにとってこういう犯罪現場は立派な観光名所である。

高橋いさを

〈劇作・演出家〉